平成２５年７月１２日出水（前線）による治水事業の効果
（東北地方整備局管内）

「速報版」

平成２５年７月２５日現在

東北地方整備局

速報　1．大沢川排水機場による被害軽減効果（子吉川）

秋田県本荘平野を貫流する子吉川は、由利本荘市街地で合流する支川大沢川の内水被害が頻発しており、平成2年6月、平成5年2月などの出水時において床上浸水被害を被ったため、平成14年3月に排水機場を設置し、内水被害の軽減を図ってきたところである。

今回洪水において、大沢川排水機場が無かった場合、浸水面積14ha、家屋被害数205戸が想定され、大沢川排水機場の効果で内水浸水被害を大幅に軽減している。

排水機場が無かった場合の想定浸水範囲（排水量から換算）

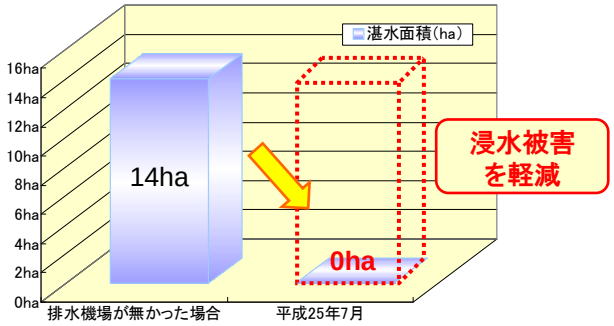
昭和62年8月出水時の内水被害

平成2年6月出水時の内水被害

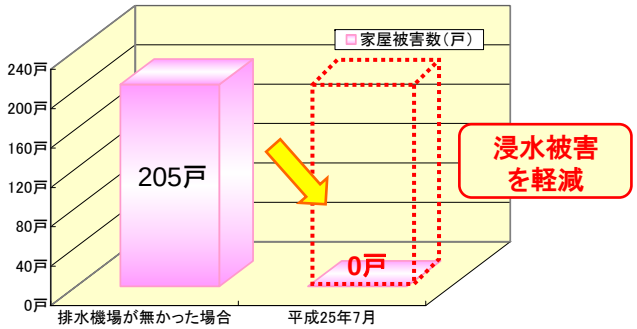
大沢川排水機場と子吉川

平成5年2月出水の内水被害

浸水面積（ha）



家屋被害数（戸）



排水機場が無かった場合、浸水面積14ha、被害家屋数205戸が想定（排水量から換算）され、排水機場の完成（H14）によって内水被害を大幅に軽減。

速報　2. 内水排除による被害軽減効果（雄物川）

雄物川流域図

※本資料に掲載の数値等は速報値です。
今後の精査等により変更をする場合があります。

排水ポンプ車による内水排除

【大仙市大曲浜町地区】
●排水ポンプ車の稼働（約6時間）により、9,900m³の内水を排水。
●排水が行われなかった場合、約2ha、家屋約80戸の浸水被害軽減効果があったと想定される。

浜町地区における排水状況

【大仙市角間川町地区】
●排水ポンプ車の稼働（約22時間）により、8,100m³の内水を排水。
●排水が行われなかった場合、約10ha、家屋約10戸の浸水被害軽減効果があったと想定される。

角間川地区における排水状況

速報　3. 浸水被害軽減対策による被害軽減効果（雄物川）

雄物川流域図

大型土のうによる浸水被害軽減対策

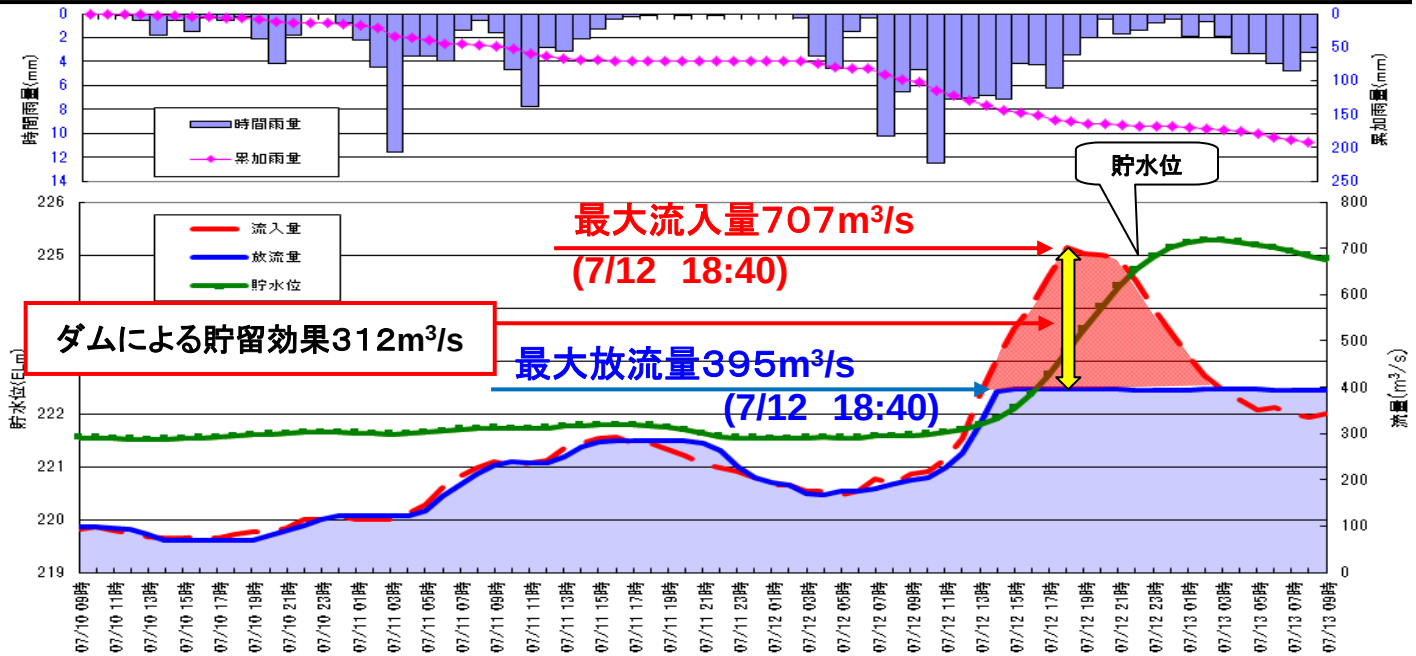
【大仙市間倉（だいせんし まぐら）地区】

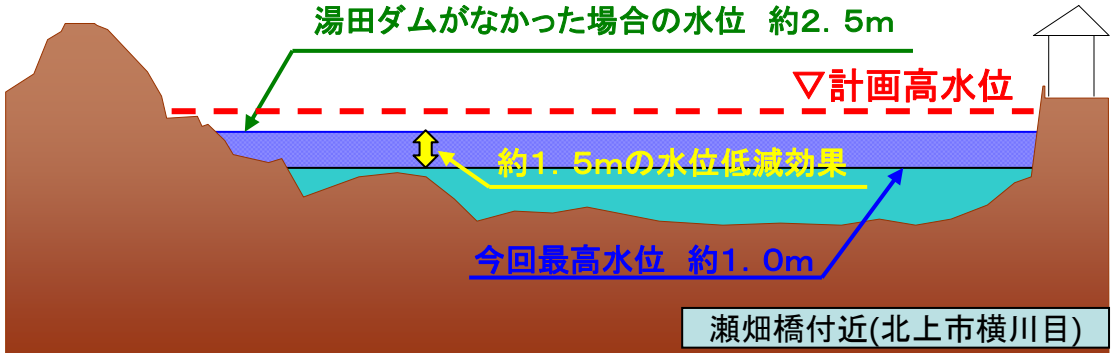
- ●堤防のない間倉地区において、浸水被害軽減対策として、大型土のうを設置。（H22～H24設置、延長約370m）
- ●今回、通路として使用されていた市道等の区間に設置（延長約30m、12日17:50完了）。
- ●雄物川の水位は、地盤から約70cmの高さまで上昇。（12日22:50）
- ●大型土のう設置により、浸水被害は防止された。

速報　4. 北上川水系　湯田ダムの効果

○梅雨前線に伴う降雨で湯田ダムにおいて、上流域平均雨量が時間最大雨量１２mm、累加雨量１８９mmとなり、ダムへの最大流入量は７０７m³/sを記録しました。
○ダムにより、最大約１０４２万m³(岩手県庁約１２３杯分)の水をダムに貯めて、下流の洪水被害の軽減を図りました。
○ダム下流で流下能力が低い瀬畑橋地点(北上市横川目)では、約１．５mの水位を低減させる効果があったものと推測されます。

瀬畑橋地点の水位(7/12)
ダム調節後　　：1.0m
ダムが無い場合：2.5m
→約１．５mの水位低減





※水位については、詳細に計算した値ではなく、概算値となっております。